

令和元年度障害者福祉に関する質的モニタリング結果

① 身体障害のある方（肢体不自由）

分野	内容
地域生活	引っ越してきた際に、全戸に挨拶に行き、自身の状況を知ってもらった。それ以降も、共有スペースの掃除などに参加したり、料理をおすそ分けしたり、積極的にコミュニケーションを図っている。10月の大雨の際には、避難などの声掛けをしてもらった。
外出	家の前にバス停があるが、乗車を断られるケースもある。東京では、バスの運転手が機敏に動いてくれてスムーズに乗車することができた。仙台の運転手はスロープの出し方も分かっていない。
	歩道の段差がひどい。何回も転んだ経験がある。雨の日は特に苦勞する。歩道用のスペースも狭く、バスや車に当たりそうになることもある。
	タクシーが停まってくれない。事情を説明した上で呼んでも乗せてくれないことがあった。介護タクシーは予約も必要で不便だし、数も少ない。
	地下鉄に乗車して長町南駅まで移動したが、各駅で駅員がついてくれて、不自由なく乗ることができた。
	多機能トイレは70cmの幅があれば、ほとんどの車椅子が入るので、国で規格を決めてほしい。
	思いやり駐車場は浸透していないので周知してほしい。店舗では、健常者が駐車しても指導ができない状況【杖使用者】
当事者活動	対象は企業向けがメインだが、高校生向けの研修でも講師を担当した。学生の方がフレンドリーで理解を示す。これからの日本は明るいと思う。
障害理解・権利擁護	壁を感じることは多い。急激に変わっているという感じはしない。「仙台市は福祉のまちづくり1号」と謳いながら、物理的バリアの話をしているようではまだまだ。
	町内会から哀れみの目を向けられたり、可哀そうと思われる。まだまだ共生社会の実現までは難しい【杖使用者】
	小学校に行った際、「前に来た人よりきれいだね」と言われた。あまりきれいではない障害者を見た経験も偏見に繋がっているかもしれない。第一印象は大切。
	引っ越しの時に、賃貸物件は車椅子を理由にほとんど断られた。店舗では、車椅子対応の試着室がほとんど無く、試着自体を断られることもある。
	車椅子用のトイレが汚い。タバコの吸い殻が落ちていることもある。
教育	低学年からの教育が必要だと感じる。
	子供たちが施設に来るような取り組みも良い。先生やスクールカウンセラーよりも障害当事者の方が言いやすいこともあると思う。

保健・医療・福祉	歩行が困難であるため、補装具の判定でウエルポートに行ったが、「65 歳なので介護保険を使いなさい」と言われた。松葉杖のサイズの指導くらいはしてほしい【杖使用者】
パラリンピック	日本で開催されることは素晴らしいことだと思う一方、世界中のパラリンピアンが来た時に、仙台市のバリアフリーは不十分だと思われると思う。現状でバリアフリーが実践できているのは東京や大阪といった大都市だけだと思う。パラリンピックを契機として、全国に広がってくれることを期待している。

② 身体障害のある方（視覚障害）

分野	内容
地域生活	<p>誘導ブロックを人や物が塞いでいるため、接触することが良くある。特に自転車が一番怖い。引っ掛かり白杖が折れることがある。ブロックの敷き方がおかしい場合や、音声信号機の設置等について、行政に改善を要望している。</p> <p>ブロックの上を歩きながらスマートフォンを操作している人がいて、正面衝突することがある。団体としてもマナー啓発をしているが、まだ浸透していない。</p> <p>駅のホームになるべく早く柵を付けてほしい。</p> <p>情報については、インターネットを通じて入手できる環境になってきている。</p>
就労	<p>全般的に大変。視覚支援学校であん摩マッサージ指圧・鍼灸の資格を取れるが、就職先が無い。資金があれば開業するという道もあるが、晴眼者の治療院が多くあるので、技術が優れた一部の人以外はなかなか勝てない。事務職もほんの一握り。特に全盲の就労は難しい。</p> <p>理解がある職場で、入口に誘導ブロックを付けたり、エレベーターを音声化してくれた。</p>
保健・医療・福祉	<p>同行援護について、50時間が限度だが、一律にせずユーザー別に定めてほしい。自治体によっては90時間のところもある。仙台市も上限時間を上げてほしい。</p> <p>団体・組織に所属していない方も多く、サービスを知らないことがある。</p>
障害理解・権利擁護	<p>小学校は、総合学習で障害者と接する機会があるが、大人は接する機会が無い。ココロン関係のイベントに多くの方が関わられるように啓発してほしい。</p>
条例	<p>以前よりも声をかける頻度が増えた。地下鉄で席を譲ってくれることが増え、障害者が一緒に生活しているということが浸透してきていると感じる。</p> <p>盲導犬の店舗への受け入れが理解されていない。盲導犬はペットではないことや法律があることを説明すると、ほぼ理解は示してくれる。</p>

③ 身体障害のある方（聴覚障害）

分野	内容
地域生活	問い合わせ先にフリーダイヤルは書いてあるが、ファクス番号が掲載されていないことが多い。
	区役所で手話相談員が不在にしている時に、タブレットを渡されたが、高齢だったため慣れておらず、途中で帰ってしまうことがあった。
	全国放送のテレビ番組は字幕対応が増えているが、地元の番組は字幕がほとんど無い。
	窓口の受付に電話しか置いていない場合はどのようにすれば良いか分からずに差別だと感じる。
公共交通機関	新幹線が突然停止したときに、電光掲示等で原因を知らせてほしい。
	バスを降車する際に、ICカードでタッチした際の音が聞こえないため、反応しているか分からない。ICカードが認識せずに運転手から怒られたことがあった。
	例えば、タッチした際に振動したり、「○」や「OK」等が表示されるようになれば分かりやすい。
	市によって補助制度が異なるので、分かりにくい。
	以前は地下鉄の電光掲示板は無かったが、最近整備されるなど、徐々に改善されてきている。東西線はお知らせ等の掲示物が多く、南北線よりも便利で安心。
病院・通院に関する意思疎通	診察時に手話通訳がない場合は、親戚が同席する。手話がないとその場で医師に病状の確認が出来ずに困る。
	医師がマスクをしたまま話すことがあり、意思疎通が困難。合理的配慮に欠けていると感じる。
	新型コロナウイルスが流行っているが、情報が入ってこないのが不安。
	女性という立場もあり、通訳されるのが恥ずかしいこともある。同席の線引きが難しい。
	専門用語が分かる手話通訳者が付いてくれると良い。
	札幌市では大きな総合病院に看護師の資格を持った手話通訳者が24時間おり、仙台市でも実現できると良い。
	毎回派遣されてくる人が変わるので、病気の経過が分からず、その都度説明が必要。継続して同じ人が派遣されると良い。
	病院で呼び出し順が番号で表示されない場合は、いつ呼ばれているか分からない。目で見えて分かる番号制になってほしい。
病院・通院以外の意思疎通	通訳派遣センターは、24時間体制では無い。土日もやっていない。緊急の場合もあるため、24時間体制で受け付けてほしい。
	電話リレーサービスも24時間対応にしてほしい。

	<p>Net119 のアプリが導入され、非常に便利になったが、スマートフォンを持っていない高齢者との格差が問題。</p> <p>手話通訳派遣の依頼を断られることもある。量的にも十分でない。</p> <p>スマートフォンを通じて、文章が苦手でも互いに手話を用いてビデオで連絡を取り合うことが出来ている。</p>
就労	<p>筆談でコミュニケーションを取る場合、言いたいことを伝えられないこともある。</p> <p>簡易な手話や筆談でコミュニケーションをしていたので、日常の意思疎通で困ることは無かった。一方、機密情報が含まれる会議等では、手話通訳が同席できないため、民間企業でも手話通訳を派遣する制度があってほしい。</p> <p>新しい単語の受け取り方に齟齬があり、誤解を招くことがある。</p> <p>会社に手話を勉強できる場が必要。</p> <p>ろう者には文章を読み取ることが苦手な方もいる。同僚に質問した際、時間があるときは良いが、忙しい時は後回しにされることもある。</p> <p>話すことが出来るため、「聞こえているのではないか」「電話もできるはず」と言われ、障害特性を理解してもらえなかった。</p> <p>情報保障が無いので、会話の内容が理解できなかったところ、周囲から「頼りない」「役に立たない」「馬鹿じゃないか」と言われたこともある。</p>
条例	<p>身振り手振りで対応してくれる人が増えてきて嬉しい。以前は疎外感があったが、少なくなってきた。福祉サービスを使うことが増えてきた。人とのつながりも深くなってきたと感じる。</p> <p>近所の人は条例について知らなかったなので、町内会を通じてパンフレットを配布してはどうか。</p> <p>手話をもっと話せる環境になれば良いと感じる。仙台市の条例になぜ手話言語条例が入っていないのかという話になることもある。</p>
障害理解・権利擁護	<p>民生委員にも障害に関する知識を持ってほしい。話しにくい人、相談しにくい人がいる。手話を分かってくれたり、聴覚障害の人でも話しやすい雰囲気を作ってほしい。</p> <p>企業に対しても発信していく必要があるが、文章を書くことが苦手なろう者もいるので、限界を感じる。</p> <p>災害時に手話通訳がいなければ、コミュニケーションが出来ないので、情報格差が起きやすい。</p> <p>オートロックのマンションでは、呼び出す相手がろう者の場合、対応することが出来ない。「開けたい」という意思表示をするボタンがあれば良い。</p> <p>仙台市が発行しているパンフレットに筆談の例は掲載されているが、手話が入っていないことも差別だと感じる。</p>

	会社・団体などで教育研修のカリキュラムの中に障害理解を取り入れてほしい。
	仙台市職員にも TAP の存在を知らないことがあり残念。職員も障害理解を深めてほしい。
	講演会やコンサート、劇などに情報保障がされていないので、余暇を楽しめない。「もりのみやこふれあいコンサート」は、手話や要約筆記が入ったので、難聴の方はとても喜んでいました。
パラリンピック	パラリンピックには期待していないが、応援はしたいと思う。
	デフリンピックの方が、歴史が古く、デフリンピックに注目している。

④ 精神障害のある方

分野	内容
地域生活	休日は家族と遊びに行くことが多いが、強い睡眠薬を使用しているため、一日眠っていることもある。
	通勤の時など疲労感でストレスを溜めやすいが、これといった発散法がないことに困っている。統合失調症患者によくある話だが、掃除が苦手な部屋が汚れてしまうのも困りごと。
外出	躁の時は毎日外出するが、鬱の時は仕事以外では外出しない。鬱状態の時に、いつも通っている道が分からなくなり、何度も道を間違えることがあり困った。
	統合失調症の他に視線恐怖症等の恐怖症もあり、知らない人から見られていることに恐怖を覚えたり、逆に職場で知人が自分の顔を見てくれないことに悲しい気持ちになったりする。実家の近所の住人が自分を知っていることに居心地の悪い思いをすることもある。
	仕事をするようになり外出が増えた。平日は仕事、休日は買い物などで毎日外出している。車で移動できる所であればどこにでも行く。
	地下鉄が苦手な、何度かパニックの発作を起こしたことがあるが、声をかけられたのは一度だけ。
	症状が重なると外出できず、社会との接点が無くなっていく。支援者が自宅に来て反応が鈍くなり、対応ができない。
就労	一度だけ障害についてオープンにして一般就労の面接を受けたことがあったが、「採用するつもりはないが、ハローワークから言われたので面接をする」と言われた。それ以降、障害についてオープンにするのは止めた。
	同僚が精神障害者と同じ薬を服薬していることを明らかにしたところクビになった。精神障害をオープンにして働くのはどのような業種でも難しい。

	<p>体調不良の場合には布団から出られないこともある。子供に自分の障害について伝えておらず、「なぜお父さんは仕事を休んでいるのか」と聞かれると説明に困ってしまうが、障害についてオープンにする気はない。</p> <p>平成30年度から精神障害者も法定雇用率に算定されるようになったが、それ以前は仕事を探しても見つからなかった。</p>
当事者活動	<p>当事者会で誘われて活動に参加するようになった。障害について話ができる仲間ができた。</p> <p>友人から誘われたこともあるが、当時服薬していた薬が自分に合っているか疑問があり、東北福祉大学にいた有名な先生に薬を処方してもらおうと思いついて参加した。生きることの意味等を改めて考えるようになった。</p> <p>周囲から人間失格の烙印を押されると考えていたが、周囲に一人の人間として接してもらったことで障害理解の重要性を知った。辛かった経験を人に伝えることで精神障害を理解してもらえるため、自分の存在価値を見出すことができている。</p>
教育	<p>頭が柔らかい小学生くらいから障害理解教育をカリキュラムとして取り入れてほしい。</p> <p>若い頃から幻聴や幻視などの症状がある人は、知識不足のため隠す傾向にある。努力して解決できるものではなく、早期介入が必要。知識を得る場があると良い。</p>
障害理解・権利擁護	<p>偏見是正は広がっていないと感じているが、ここ数か月でバス降車時に無視されることが減った気がする。</p> <p>障害者と健常者が直に触れ合う機会をつくる必要がある。直接触れ合うことで、自分と同じ一人の人間だと気づくことになる。</p> <p>大きな変化を感じることはない。あらゆる場面や職種で障害者に仕事をしてもらうことで、障害理解が進む。マスコミが啓発に努めることや、障害者自身が意見を発信することも大切。</p> <p>障害者自身も障害者への偏見を持っていることが多いと思う。自分自身も「気持ち悪い、障害者って嫌だな」と思うこともあり、偏見を持っているのだと思う。</p> <p>差別は障害の有無ではなく、マジョリティの都合でマイノリティに押し付けられるもの。マジョリティはマイノリティへの配慮に責任を持つ必要がある。</p> <p>精神障害を武器に振る舞う人がいる一方で、伝えることによる差別・偏見を受けるケースもあるので、そういった点は難しく感じる。</p> <p>障害理解に変化は感じないが、種をまいている段階だと思う。5年から10年経過すると変わってくるかもしれない。ヘルプマークは少しずつ浸透してきた。</p> <p>最近、有名な人が病気をカミングアウトするようになったことは意味がある。他人事ではないということが浸透すれば、理解も進むと思う。</p>

<p>情報</p>	<p>インターネットから情報を得ている。病院からの声かけもある。10年程前に手帳を取得した際、取得後にどこで何をしたら良いのか、相談先すらも分からず困った。行政では手続窓口のワンストップ化をしてほしい。</p> <p>区役所に置いてあるパンフレットや自宅に届く通知から色々な情報を得ている。インターネットや市政だよりは見ていない。</p> <p>福祉担当課の窓口やインターネット、知人の口コミで情報を得ている。手帳の更新を忘れてしまい、サービスが受けられなくなり困った。</p>
<p>条例</p>	<p>条例の名称も内容も知っている。障害理解は身体障害については深まっているが、精神・知的障害者については置いていかれていると感じている。ハローワークで障害者雇用の求人を探すと、明記してはいないが身体障害者雇用が8割である。合理的配慮もすべて身体障害者に対するもの。</p> <p>条例を知らなかった。障害理解もそれほど深まっているとは感じていないが、バス運転手の対応など、ここ1年で少し変わってきているように感じている。</p> <p>法律も条例も知っている。身体障害者については、雇用の選択肢が多いとは感じている。ヘルプマーク着用者を見て意識する人は少しずつ増えてきた。</p> <p>通院していることを言いにくい環境だと思う。困っているときに「精神科や心療内科に行ってみたら」と気軽に声掛けできるような状況になれば良い。</p>
<p>パラリンピック</p>	<p>パラリンピックに特段期待していることはないが、日頃から障害者スポーツが盛んであれば良いと思う。</p> <p>闘う障害者の姿から、障害の有無の垣根を越えて、同じ人間であることを再認識できれば良いと思う。共生して行こうという熱い心が生まれるのではないか。</p> <p>精神障害者が対象でないことは残念だが、パラリンピック開催に伴い、色々な障害者スポーツの大会が開催されていると聞いている。障害者スポーツがどんどん広がっていけば良いと思う。</p>

⑤ 発達障害のある方

分野	内容
地域生活	自分が困っていることに気づけない。他人から指摘されて気がつく。聴覚過敏があり、サイレンの音が苦手。
	睡眠をとることが苦手。興奮状態になると、夜眠ることができない。
	被害妄想がある。過去に受けたことがトラウマになり頭に浮かぶ。実際に、公共の場で人が言ったことに対して反論してしまうこともあり、周りの目が気になる。
	障害特性に関係したトラブルが起きると、気持ちの切り替えが難しい。
就労	何でも自分でやろうと抱えてしまう。自分でやらないと安心できない。自分のキャパシティを超えてしまうことがあるが自分からは言えない。
	気持ちを切り替えることが難しい。夜遅くなると、次の日に切り替えることが難しい。
	気が付かないうちに独り言を言ってしまうたり、気持ちを落ち着かせることができずにトイレの扉を蹴飛ばしたしまったことがある。
	一人で抱え込んでしまう。相談できないため、パソコンが故障したことを相談できずに、4時間経過したこともあった。
	仕事中毒になりやすい。頼まれたことを断れない。私生活がおろそかになってしまう。自分の考えを言葉に置き換えるのが苦手。自分のできる仕事量を把握していない。
情報	母が様々な情報を持ってきてくれた。母のサポートがないと情報を知ることができなかった。母はアーチルや市報で情報を得ている。
	市報や新聞報道で見ることもある。他の当事者からの口コミ情報を共有している。
条例	福祉業界の人は当然知っていると思うが、一般の市民の方の認知度は疑問。発達障害と言ったら普通に見えるといわれた。目に見えない障害のことをあまり理解していないのではないかと感じる。ヘルプマークについても一般の人はあまり知らないのではないかと。
	一般の人は、昔の自閉症のイメージではないか。公務員以外への広がりには難しい。学校の先生レベルでは、特性のある子ということで浸透してきていると思う。
	障害に関わらず、他人を気遣うということが無くなってきている。ヘルプマークがなくても気遣うことができるのが、条例が目指している共生ではないか。
障害理解・権利擁護	当事者発表に関係者しか来ない。学校で発表するときも当事者の親は参加するが、それ以外の方に伝える機会が無い。目に見えない障害を持っている側が、もう少し発信していかなければならない。

	小学生、中学生、高校生といった方と当事者が交流する機会があると良い。学校の図書館等に、発達障害関連の本、例えば漫画でもあれば子供たちも喜んで読むのではないかな。
	多様性を認めないと差別は無くならない。色々な障害があるが、縦割りの状態。区別が差別に繋がってしまうのではないかな。学齢期から色々な方に接する機会を増やせば、差別は減っていく。
	こちらがやることを何でも「やらなくていいよ」と片付けてしまう人がいる。上から目線だと感じ、自尊心が傷つく。
	法律が施行されて見える差別は減るかもしれないが、その分水面下で見えない差別が増えるのではないかな。

⑥ 難病患者・家族

分野	内容
生活全般	<p>○てんかん</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病気についての誤解や偏見が多い。昔から「狐憑きや血筋」と言われる。周囲に明かせない人も多い。 ・発作にも色々種類があるが、発作があると何もできないと思われる。見た目では病気が分からないので、「なぜ学校に行っていないのか、働いていないのか」と言われ、ひきこもる人も多い。 ・工夫があれば色々な生活が出来ると思うが、「安全を考えたら無理です」と言われ、工夫の前にストップしてしまう。移動支援の制度もあるが、通勤・通学では使えないため、親が付き添うことになり、親が仕事を続けられなくなることもある。 ・グループホームに入りたいと相談しても、てんかんの人に対応出来ないとの理由で入所を拒まれ、行き場が無い人もいる。 ・別の病気の治療のため、病院を受診したくても、手術中に発作が起きると対応できないとの理由で断られる場合もある。 <p>○パーキンソン病</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手が震えるのが恥ずかしいと考えて周囲に言えない人も多い。実家では「祟りだからお祓いをしてもらおう」と言われた。 ・近所に知っている人がおらず、夫がいないと他に頼れる人がいないので、今後は勇気を出して町内会に参加しようと思っている。自分の病気を周囲に知らせることは大切。 ・「甘えている。さぼっている」と勘違いされやすい。 ・パーキンソン病の人が激増していて、難病の基準（人口の0.1%以下）に合致せず、難病から外されてしまう可能性があるという聞いた。難病の薬は非常に高価なので、難病から外されると自己負担が多くなり不安。 <p>○胆道閉鎖症</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内に20数名しかいない。子供は学校でいじめられたりすることがあ

	る。
就労	<p>○筋ジストロフィー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ネットワークを使った仕事しか出来ない。例えば東京への出張研修に参加できなかつたり、1日8時間労働も厳しい場合もある。障害年金をもらっているの、金銭面より「世の中の役に立てるか」に重点を置いている人が多い。 ・40歳くらいで発症した場合は、仕事を辞める人が多く、どうフォローするかが課題。したいことが出来ない上、配偶者も介護しなければならない状況になり、若いうちは良いが高齢になると大変。 <p>○後縦靭帯骨化症</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会社に勤めている人は、産業医に相談することもあるが、産業医に知識が無く、病気を恐れることもある。 ・心のケアが課題で、産業医から心療内科を紹介されることがある。働いていた自分と比較して落ち込む人が多い。患者会では同行支援を提案するが、他人の手を借りることを拒否する人もいる。仕事を続けても職場の理解が無く、復職したくとも「自宅待機」と言われ、鬱になる人もいる。
外出	<p>○パーキンソン病</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬が切れているときは、地蔵のように動かない。外出中に街中で座って休めるところが少ない。 ・仙台はバス停が少ない上に本数も少ないので不便。以前住んでいた神奈川県は自宅近くにバス停があった。バスを小型化する等の工夫で、多くの本数を走らせてほしい。 ・市内のバスは、車椅子を乗せてくれない。車椅子で通れない道も多い ・健常者にも車椅子の体験をしてもらうことが大切。 <p>○胆道閉鎖症</p> <p>てんかんとクローン病を複合で抱えている人は、就労できず、通院にも親の付き添いが必要で、家事手伝いしかできていない。何とか社会参加できないかと考えている。</p> <p>○筋ジストロフィー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バスの運転手に乗降介助を拒まれ、「他の乗客に介助してもらってほしい。他の乗客がいないときのみ介助する」と言われた。 ・障害者用の駐車場に駐車する際、店員に「リサイクルステーションから回収するトラックの侵入の邪魔になるので駐車しないように」と言われた。
相談窓口	<p>病気を隠しているの、役所に行けない人もいる。仙台市も含めて、てんかんを扱う窓口が無い。そもそもてんかんの診断を受けたときに、障害福祉サービスを受けるために障害高齢課に相談しようという発想に至らない。</p>

	若い人はインターネットで情報交換をしているようだが、正しい情報を得られない危険がある。相談に来ている人は、既に一步踏み出している人。相談できない人もいる。
	患者会がなかなか見つからなかったが、障害高齢課の保健師が相談に乗ってくれたことがある。
	当事者が相談に乗ることで、気持ちや経験を共有できる。
	地方の場合は、郵便局員やタクシーの運転手も顔馴染みなので、手紙に患者会の名称が記載してあったり、タクシーで割引制度を使うと、すぐに広まってしまう。
	患者会を通して重要なことを整理した上で行政に提案する仕組みがあれば良い。
	難病と診断されたときに患者会や福祉サービスを紹介してもらえるように、病院・行政・患者会と横のつながりがあれば良い。いまだに福祉サービスの内容を知らない人もいる。
障害理解・権利擁護	難病を恐れてしまうことが残念。難病の知識が無いことの弊害で理解が進んでいない。患者の努力も必要だが、社会の努力も必要。
	差別と障害理解は表裏一体。障害が分からないので差別が起きる。
条例	条例は知らなかった。障害理解が深まっているとは感じない。普段の生活で障害を意識することがあまり無い。
	パーキンソン病は半数が障害者だが、パーキンソン病と障害が結びついていない人も多い。
	外見から分からない障害についての理解は進んでいない。
	銀行の点字ブロックに車が停まっていたので、職員に注意したが、なかなか応じてくれなかった。店長からは、「点字ブロックをつけなければ良かったのですか？」と言われた。障害理解もそうだが、条例の意味も広めていく必要がある。
	ココロン・カフェにも当事者が参加しているが、内輪で話し合っている印象がある。興味・関心が無い人にも広げていくことが必要。例えば、障害に限らない多くの人々が来るイベントで啓発してはどうか。
教育	支援学校に進学する人と普通学校に進学する人がいる。最近では普通学校に進学する人が多い。学校にどう理解してもらうかが悩み。
	大学についても、親が付きっきりにならないといけない。仙台市では1年間の限定で公的支援もあるが、自治体によって様々で、周辺自治体では制度自体無いところもあり、地域差が顕著。
	小学校から高校にかけて障害に関する教育が必要。授業に限らずサークル、交流会でも良いと思うが「自分たちに関係がある」と分かってくれるだけでも大切。1～2年だけでは難しいと思うが、小・中・高と段階的に教育を進めていくことが理想。

⑦ 障害者スポーツ関係団体

分野	内容
スポーツ	知的・発達障害の定義も整理されたことや、自立支援法の改正に伴いサービス支援対象が難病へ拡大したこと等により、フィールドの広がり・変化を感じる。
	身体・知的・精神の違い、先天的か中途なのか、特性に合わせて何ができるか考えている。
	トップアスリート、ゆるスポ、高齢スポーツなど、幅広い対象の中で、参加者と内容の選定が課題。個別のニーズではなく、全体に何ができるのかを考えている。
	所管する団体が無い、競技人口が少ない等の理由で、希望に添えない場合が多く、ジレンマを抱えている。
	親は子供が心配ゆえに守ってしまいがちだが、一步踏み出し、可能性を開くことも大切。
	知的障害、精神障害の方とドッジボールを行うことで、見えない障害、心の障害に関する障壁の解消を進めている。
	在学中はサポートが多いが、卒業後はそうではない。社会としてサポートが必要。身近なところで継続して使える体育館等があれば良い。
	移動支援は、遠足などイベント時以外ほとんど無く、保護者が車を所有していることが、子供が障害者スポーツを続ける条件になっており、課題の一つ。
パラリンピック	支援者講習の参加者がパラリンピック発表の前後で変わった。発表前は定員割れをしていたが、オリパラが決まってからは定員を割っておらず、関心が高まっていると感じる。
	開催後に関心がなくなることが不安。できるだけ緩やかに興味・関心が下がっていくようにしたい。この機を逃さず多くの方に知ってもらえるように種まきを行う。
	スポーツ施設など目に見えるものは実績として分かりやすいが、いつか壊れる。文化的なものは測りにくい。障害理解が広がることがレガシーだと思う。
障害理解・権利擁護	車椅子は見慣れてきていることもあり、抵抗感が無くなってきていると思う。それ以外はまだ理解が進んでいない。仙台駅で白杖を落とした方を見かけたが誰も何もせず素通りしていった。
	障害者の悪い印象が強く残っているため避けられているのではないかと。
	ポスター、動画、企業の研修など、障害に触れる機会を設けてはどうか。

	<p>障害のある人もない人も同じ会場で大会を行って、多くの方に見てもらってはどうか。当事者側も「見られるのは嫌」ではなく「見られてもいい」という意識に変わる必要がある。受け入れてもらう土壌づくりも大切。</p> <p>社会の中に自然に障害者がいることが目標。障害のある人とない人が一緒に何かすることで交流が生まれ、理解が深まる。</p> <p>当事者、関係者になって初めて関心を持つ方が多いからこそ、子供時代から障害のある方と一緒に何かやることで関心を持ってもらい、積み重ねていくことが必要。</p>
条例	<p>行政が注力してアピールをしてくれていることが変化だと感じる。施行からまだ3年。浸透はこれから。</p> <p>地下鉄東西線はバリアフリーになっているが、南北線はそうではない。「暮らしやすいまち」「ハード面」ではまだまだ浸透していないと感じる。合理的配慮の意識も足りない。</p> <p>地方と比較すると浸透している。地方では、そもそも車椅子の人を見かけない。障害者スポーツをする機会も無い。</p>

⑧ 発達に不安のある子供の家族

分野	内容
生活全般	<p>親が元気なうちからグループホームに入れるのが良いという意見も聞くが、娘は納得が必要なタイプなので、自分が老いて弱っていく姿を娘に見て、納得させながら施設で生活をする準備を進めている。</p> <p>サービス量が全体的に不足している。当事者がどう生きたいのか話を聞く場がもっと必要。今までは親がサービスとサービスの隙間を埋めていたが、親が老いると隙間を埋める人がいなくなり施設に負担がかかる。</p> <p>移動支援のヘルパーが不足している。担当者が辞めてしまったら、自分は仕事を辞めざるを得ない。支援員がいる曜日に合わせて利用者がサービスを使う状況。</p> <p>収入が不十分で、特に男性のヘルパーが少ない。グループホームの増加により職員が移動支援から取られている。</p> <p>放課後等デイサービスが無かった世代の親なので、子供と過ごす大変さや楽しさを知っているが、若い世代の母親は放課後等デイサービスがあることが当たり前。15時頃に子供が帰宅した後はどう向き合ったら良いのか分かっていない。受け皿として、成人が参加できる余暇活動の場があれば良い。スポーツや文化等、大人の余暇を手厚くして欲しい。</p> <p>成人後にリハビリで通える施設がない。高齢者はデイサービスでリハビリに通えるが、障害者が通うことができ、PT・STがついてくれる施設はない。児から高齢までの間の継続したリハビリケアを検討いただきたい。</p>
外出	<p>子供が異性の場合、トイレや温泉に同行するのが困難。着替えをさせる十分な場所がないことが多い。ひろびろトイレの数も少ない。</p>

	息子と外出した際、男性トイレに一人で入らせたところ、長時間出てこなかった。通りかかりの男性に事情を話して確認してもらったら、水道で水遊びをしていた。
就労	一般就労や就労支援の枠を広げることも大切。身体障害者は1年ごとに契約更新されたが、発達障害者は1年で契約終了となった例がある。
	一般就労が可能な場合、他のサービスを利用しておらず、相談支援事業所とつながっていない場合が多い。当事者は仕事を辞めたり転職したりする際の相談先がなく疲弊してしまう。
	ジョブコーチ制度が充実すると良い。障害者に限定せず、特性や生きづらさに目を向けて仕事を見守る制度があれば、職場での失敗からひきこもりになるような方のケアにもなる。ジョブコーチ制度は脆弱なので、ジョブコーチ的な役割を果たせる人を育成する研修会を行政主体で複数会開いてもらえると良い。
障害理解	発達障害の場合には本人の思いを伝えるのは親や周囲。本人の意思ではなく親の望みであることもあり、代弁が難しい。
	見た目で分かりにくくグレーゾーンな方に対しては支援しないという雰囲気がある。最も線引きを感じているのは当事者本人であり戸惑っている。
	東日本大震災を契機に、避難所における対応、福祉避難所や施設の利用など障害理解のあり方が浮き彫りになった。
	ハード整備を進める際に当事者に意見を聞かないことが多い。支援学校でさえ、当事者のライフデザインを想像していない。公共交通機関を使えるように練習するのも自立の観点から重要だと思うが、宮城県は公共交通機関が無い場所に学校を建てた。
	小松島支援学校を建てる際に保護者の意向調査があったが、意見は反映されなかった。
	バリアフリーに対応している市営住宅は少ない。1階でも5段ほどの段差がある。車椅子用駐車場もない。
	トイレの造りが一般的な車椅子しか想定していない。南部アーチルもエレベーターの広さがストレッチャーを入れるには十分ではない。
	車椅子駐車場で軽自動車が2台停めているのを見たことがある。当事者が気を遣っているのが現状。
	公共交通機関のバリアフリー化やユニバーサルデザイン家電の増加により、以前よりも障害者にとって優しい社会になっていると実感している。
我々の世代では、通学や通所の際に子供を保護者が送迎することが当たり前だったが、高齢者施設では施設側の送迎が当然になっている。送迎の大変さが障害者を家族に持たない方についても理解され、共有できるようになった。	
条例	参加者6名全員が法律と条例の概要を把握。

パラリンピック	障害者は全員才能があると思っている人もいる。ごく普通の障害者で、スポーツができないと聞くと一方的に残念がられることもある。 選手のサポート側に障害者もつくると良い。
---------	---

⑨ 障害福祉に関する法人・団体の職員

分野	内容
人材	人材が不足していることが一番の課題。特に男性の職員がいない。利用者の親からも男性職員が欲しいと言っているが難しい。
	高齢分野より障害分野の方が賃金が安いので、働く人がいない。高齢者は働き手がないので、施設を閉所しているところがあるが、障害もそのようになりつつある。今はグループホームを作っているところが多いが、世話人がいないと聞いている。
	若い職員がいない。学校からも実習は多いが別の業種に就職してしまう。専門学校自体も少なくなっている。
就労	障害者の働き口がもっと増えれば良い。民間が仕事を分けてもらえれば収入が増えて良いと思う。効率だけではなくて、障害者を支えるために仕事の切り出しをするというワークシェアの発想が無い。
	一般の大手企業にも福祉に興味を持ってもらって参入してもらえると良い。
	行政からの委託契約については、入札による1年契約であり、次年度の契約決定時期が3月になる。遅い時には3月末になったこともある。
	入札で落札するためには工賃を下げるしかない。入札による契約方法は福祉の支援に馴染まないため、随意契約で契約が可能か検討いただきたい。優先調達なのに入札があるのはおかしい。
	視覚障害は理解がされにくく、支援が乏しい。色々なことがネックになって力を発揮できないことが多い。能力開発校を卒業しても、一般就労に結びつかない。
	ハローワークに相談した際に、職員から「自立して通勤できなければ、仕事は紹介できないので帰れ」と言われた。過去に能力開発校の室内に盲導犬は入れないので、屋外に繋いでおくように言われた。
	目が見えない分、記憶力が良かったり、頭が回る人もいて、能力が高い人が多い。本当に勿体ないと思う。
	請求の方式が変わった関係で、訓練等給付費がワンランク下がった。週1回、月2回の利用者が多くなれば工賃が下がる。利用が少ない人を何とか除外してほしいと仙台市に足を運んで相談をしたこともある。工賃を上げるためと言っているが、そうは思えない。働きにくい人は働くなと言われてきている気持ちになる。
	能力のある人はごくわずか。そうでない人が多い中で、高い効率や高い能

	<p>力を求められると、当事者はつらい。高い能力を持っているというアピールではなく、持っている能力を活かせる職場を考えていくことが必要。</p> <p>「目が見えないだけ」、「発達が遅れているだけ」、「足が悪いだけ」でありカバーしてもらえれば、一緒に働ける。「誰かが目を補えれば問題ない」という考えが定着して行ってほしい。中途の人はこれまでの経験を活かして働ける。</p> <p>A型とかB型とか区分けしていることが疑問。「B型だから仕方ない」との甘えが出てきてしまう。</p> <p>法人では19名の障害者雇用を行っており、うち12名がA型及びB型の職員。社会の変化を感じている。障害のある方が社会に出て人の目に触れてきたことが大きい。行政が法定雇用率を率先して守ることで、社会に出てくる障害者はもっと増える。</p>
障害理解の現状	<p>利用者の外出機会を多くしているが、声をかけられたり、席を譲ってくれることが増えた。以前は偏見の目で見られることもあり、団体行動をしていたが、今は個別で行動できるようになった。</p> <p>近くに支援学校がある中学校は、小学校から交流していることもあり、障害理解が非常に進んでいる。</p> <p>知的障害者は奇異な動きをすることもあり、周囲の方が不安に感じてしまうのは仕方がない。しかし、間に入る我々の一言や対応で社会の受け止め方は変わり、障害者の生きやすさにつながることはある。そのことを知る世代が若手職員に引き継いでいくことが課題。</p> <p>盲導犬と歩いていて、一般市民が障害に対して積極的になっていると感じる。声をかけられることも増えた。</p> <p>以前と比べると差別や配慮は少しずつ身近になってきていると感じる。変わってきた実感がある。より一層障害者の社会参加を進めていくことが必要。</p>
障害理解を進めるための取り組み	<p>小さい頃から一緒に学んだり交流する機会を意識して増やすことで自然と態度が備わっていくのではないかな。</p> <p>点字や手話の講座は人気がある。予算の関係で初級の講座しかできていないが、ステップアップの希望も多い。市民センター等でも単発で構わないので実施してもらえると良い。</p> <p>高齢者向けや認知症の講座は多いが、障害は少ない。大人になってから障害について触れる機会が少ない。</p> <p>地域包括支援センターやサロンでも高齢者に関するものが多い。高齢者だけに特化するのではなく、障害についても増やすように市から働きかけてはどうか。高齢者だけでなく色々な人が参加するサロンになると良い。</p> <p>障害のある方にもPRしてはどうか。権利意識の強い方は条例について理解していると思うが、障害当事者への浸透度が高いとは言えない。条例があることで救われる方もいる。</p>

	<p>店頭で協賛シールを貼ってもらおうといった取り組みはどうか。話題が膨らむのではないかな。</p> <p>一般の方を巻き込み、他人事ではなく当事者にする工夫が必要。</p> <p>より多くの方に差別解消事例集を読んでもらうため、設置場所を広げて欲しい。区役所に設置するだけでは、用事がある方しか行かない。</p> <p>仙台市役所の全ての窓口等の人目につくような場所に視覚障害者を配置し、市民と接する機会をつくれば良い。車椅子の人は良く見かけると聞かすが、全盲の人は聞かない。</p> <p>点字で読めば、アナウンサーが出来る。障害があっても出来ることを多くの場で触れる機会をつくって欲しい。テレビで障害者の活躍の場を紹介していると聞いたが、マスコミの力は非常に大きい。</p> <p>学生が職場体験をしに訪れるが、1～2日でも対応が変わる。身近に接すると「自分たちと一緒にだ」と感じる。若いうちに接することは大切。</p> <p>障害者雇用の事例を発表するイベントがあったが、障害者が就労することが珍しいという扱いであった。珍しいもの扱いするのではなく、「市役所内で当たり前前に障害者雇用をしている」というアピールをしてはどうか。表彰するということが体が特別視だと思う。障害者雇用は表彰されるものなのか、違和感がある。</p> <p>居酒屋などで情報保障が進めば、自分でメニューを選ぶことができ、他人に気を遣わなくて良い。自立の一步になる。</p>
条例	<p>法律や条例の施行がきっかけで大きな変革になったという印象はない。また、我々と周囲との関わりにも変化はない。ただ、メディアにはよく取り上げられるようにはなった。</p> <p>利用者の意識の違いも感じる。自ら「優先席なので、どけてください」と意思表示するようになった。ヘルプマークを付けている効果もあると思う。差別解消条例施行のあたりから大きく変わった気がする。</p> <p>宮城県でも条例を制定するとのことなので、その機会に乗じて市長もPRしてはどうか。</p> <p>障害企画課での説明会や、マニュアル等を活用した職員会議で伝達研修をしているので、職員も理解している。</p> <p>店舗でマークを見かけるなど、以前よりも障害者を町で見かけるようになった。</p> <p>優先駐車場の数が増えて、幅も広くなり、場所も目立つところになった。健常者は駐車できない旨の案内も増えた。</p> <p>以前は障害者に関するマークが簡単に手に入ると、特に高齢者を中心に悪用している人もいた。最近では周囲の目もあるので減ってきている。</p> <p>ひろびろトイレも増えて、外出が楽になった。</p>

	<p>買い物のスペースも広がった。声をかけてもらうことも増えてきた。設備が整ってきているので、荷物も少なく済んでいる。</p>
保健・医療・福祉	<p>役所の通知は、全盲の人は読みようがない。どこから来たのかも書いてない。ヘルパーにも個人情報なので見せづらい。情報保障がなされていないので、点字で情報提供をすることを考えてほしい。最低でも市役所・区役所から来ていることが分かるようにしてほしい。封筒にシールを貼る等であればすぐにできる。</p>
	<p>同行援護については、趣味で利用できるが、仕事で利用できないのはなぜか。目的は利用者の自由だと思う。いかにして金を出さないかという観点から制度を作っているとしか思えない。</p>
法人・事業所間の連携	<p>法人内での情報共有はできているが、別法人との接点が少なく、連携を進めていければ良い。</p>
	<p>一施設だけでは、地域での対応が困難なので、他の法人の事業所や地域の方とも協力して対応している。情報や危機管理を共有している。バス停から施設まで距離があるので、地域の方にも道路の状況を連絡して対応してもらっている。</p>
高齢化	<p>利用者の平均年齢が40歳に近く、区分6が半数以上で、親が70歳近く高齢の方が多いので、負担が大きい上、親亡き後が喫緊の課題。利用後にグループホームに通えれば介護負担が軽くなり、親も安心。ニーズは今後も増えていく。</p>
パラリンピック	<p>障害を持った人でも頑張れるという意味で、健常者の励みになるのではないかと。障害を理解してもらうには分かりやすい。</p>
	<p>今回は選手団のユニフォームも同じになって、義足の方も隠すパンツタイプではなく、見てもらうスカートタイプになっている。</p>

⑩ 手話通訳者・要約筆記者

分野	内容
事業の課題	<p>○手話通訳</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ聴覚の団体でもつながりが強い団体とそうでない団体があり、交流が無い団体とは情報交換の機会に乏しい。 ・通訳はボランティア頼みが大きい。ボランティアを出来るのは生活や時間に余裕がある人に限られる。新規で活動する人が少ない。特に若い人が少なく、高齢化が進んでいる。 ・昔と今では養成方法に違いがある。昔は養成のための制度が無く、実践の中で学んでいた。今はカリキュラム重視のため、知識はあっても経験不足の人が多い。 ・医療通訳が増えているが、医療通訳は一人派遣のため、負担は重い。先輩通訳が指導することも難しいので、学ぶ場が少ない。

	<p>○要約筆記（パソコン）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・求められている水準はボランティアを超えている。平日フルタイムで働いている人が多いので、休めない場合もあり、仕事との両立が難しい。 ・イベント開催時に、主催者が情報保障のための予算が無い場合は、要約筆記団体が負担している。行政等からの支援があっても良いのではないかな。 ・多くの自治体では養成カリキュラムを1年間で終わらせて、毎年受験可能である一方、宮城県では2年に1回の募集であり、人が集まらない。 <p>○要約筆記（手書き）</p> <p>活動人数の確保が課題。県と市の合同での養成講座では、今年は受験者が0人だった。隔年ではなく、毎年受験できるようになると良い。</p>
障害理解	<p>周囲の人は障害者に親切にしなければならぬと感じていると思うが、どう声を掛けたら良いか知らない人が多いと感じる。</p> <p>「障害は他人事だ」と感じると、線が引かれてしまう。例えば、職場に障害者がいれば、その状況に慣れて、障害理解が進むのではないかな。</p> <p>知り合いが突発性難聴になった際に、休暇等の配慮をしてくれた。その上司の家族も突発性難聴になったことが、丁寧な対応をしてくれた理由であった。障害を知っている人と知らない人とでは対応が違って来る。</p>
障害理解に関する啓発活動	<p>子供からの教育が大切。自分の子は、自分が子供だった頃と比較すると障害について勉強することが多いと感じる。</p> <p>福祉と関係の無いイベント等で、聴覚障害者がいなくても手話や要約筆記等の情報保障を付ければ良い。福祉プラザでイベントをしても関係者しか来ない。一般の人が歩くような場所で開催した方が良い。</p> <p>仙台市はパンフレット等の普及啓発を積極的にやっている方だと思う。</p> <p>仙台市のHPや市政だよりを見る人は関心のある人だと思うので、関心の無い人に届けるような方法を検討してほしい。</p> <p>地下鉄の乗車マナーを啓発する動物の漫画が可愛いので、同じように広報してはどうか。</p>
条例	<p>企業や団体からの出前講座の依頼が増えてきており、障害を理解しようとする動きが増えていると感じる。</p> <p>車椅子の夫と食事するときも店側に嫌な顔をされることが少なくなった。</p> <p>関係者からは、条例が当初よりも下降気味で、周りが無関心になってきているとの声がある。</p> <p>図書館で対応する中で、障害当事者と接することが増えてきた、条例が出来たことが申し出をしやすくなった一因ではないかな。ここ2～3年で雰囲気が変わったと感じる。</p>
パラリンピック	<p>デフリンピックと一緒に開催してほしい。</p> <p>一時的なお祭り騒ぎで終わってほしくない。</p>

⑪ 一般市民

分野	内容
障害のある方と接する機会	接客中に奇声をあげている障害児を見かけた。親はホテル側に気を遣っている様子だった。また、2ヶ月に一度、歩行困難で言葉も十分に話せずに携帯電話を見せながら意思を伝えようとされる方を見かける。仕事以外で接する機会はあまり無い。
	仕事で事業所を訪問する際に、障害のある利用者と接する機会がある。プライベートでは無い。
	近所に障害児をお持ちの家庭があり会話することもあるが、困ったことはない。自宅は防音設備を備えており、気を遣っているようだ。
	子供の保育所に発達障害児がいた。保護者の方はかなり気にしていたが、周りの親の方は気にしていない。子供同士も気にする様子は見られなかった。
合理的配慮	障害理解サポーター養成研修を受講するまで知らなかった。
	日常生活ではあまり聞かない。
	電車通勤だが、同じ電車で車椅子の方がいることがある。ステップ等駅員が準備して対応していて、周囲も急かしていなかった。理解が進んでいると思う。
偏見・差別	障害者2人と一緒に働いているが、「個性」であると思っている。計算が苦手と分かっているので、難しい仕事は依頼しない等の配慮はするが、自分の中ではあまり意識していない。
	一緒に寮に住んでいて、生活の中で感じることはあるが、仕事では真面目で一緒に働きやすい。障害の程度もあるとは思いますが、嫌だと感じることはなかった。
	親の方が気を遣っているとを感じる。子供同士は、「あの子は何かみんなと違うところはあるが、それでも良い」という話をしていることがある。
	テレビで特集する機会が増えたと感じる。子供にも「障害があってもここまで出来る」と分かるので、より理解が浸透していけば良い。
	精神障害は外見では分からないため、配慮が必要か分からないことがある
	偏見を持つてはいけないと思うこと自体が差別かもしれないと感じることがある。
障害理解の取り組み	仙台市がどんな取り組みをしているか分からない。
	動画配信サイトでの広報は、世間的には広がるかもしれないが、心ない人もいるので傷つく人もいるのではないかな。
	手話を覚えたい。毎週何曜日になると足が重くなるのでフリーで入れるほうが良い。ふらっと行けると行きやすい。
	インスタグラム等のSNSで発信すれば、気軽に見やすい。

	<p>障害理解サポーター養成研修に、実技体験を加えて受講したい。</p> <p>当事者の講話を聞くだけでなく、スポーツを一緒にやるなど、お互いにやり取りをするようなものがあると良い。</p> <p>学校では障害体験学習などがあると思うが、中高生には障害理解教育や体験などの授業が減っていく印象がある。大人の手前の世代である中高生に持続的に障害者と接する機会が増えると良い。</p>
障害のある方に関するマーク	<p>ヘルプマークを見たことがない。</p> <p>公共交通機関での通勤なので、ヘルプマークは見かける。</p> <p>優先席に貼ってある妊婦や高齢者のマークは、以前より分かりやすくなったと思う。</p>
条例	<p>トイレが広くなったり、スロープが多くなったり、マークが増えていると感じる。</p> <p>会社で研修など様々な機会があるので、障害理解については身近に感じる。障害のある方が身近にいない方は、どれだけ関心があるか分からない。</p> <p>公共交通機関の優先席付近では、車椅子の方に配慮ができるが、知的の方、障害が見えない方への配慮が難しい。何をすれば良いか分からない。大声を出したりする方への配慮も難しい。</p> <p>近所のアイス屋は、障害のある方が作っていて、子供たちに人気。イベントなどで当事者の方とスタッフが無料券を配る機会では、人だかりになる。小さい頃から周囲にそういった環境があると良い。</p> <p>罰則があると、障害のある方に関わらないようにしようと思うかもしれない。障害のある方も気を遣って表に出なくなるかもしれない。</p> <p>金融関係では、障害者差別解消法が施行されて以降、「合理的配慮をすること」という通知が多くあった。保険会社の支店レベルの従業員の方がコロナ・ストラップを付けているのを見かけるなど、障害理解サポーター養成研修を通じて少しずつ広がっている印象がある。</p>
パラリンピック	<p>昔はパラリンピックを知らなかった。今はCMも流れており、以前よりは関心を持っていると感じる。</p> <p>障害のある方の希望につながると思う。凄いとは思いますが、障害理解が深まるかと言われると分からない。</p> <p>パラリンピックを見て、当事者が自分もできるかもしれないと希望にはなると思う。事故で自身が当事者になっても、こういうことができるかもしれないという想像ができる。</p> <p>障害のある方を実際に目にする機会が増えて、住みやすいまちとか差別が無くなることに繋がれば良い。</p> <p>車椅子バスケの漫画が子供たちにも人気がある。障害者スポーツが文化として定着し、差別が無くなると良い。パラリンピックを見ていると勇気もらえる。</p>